

高校生の価値観・キャリア観のいま



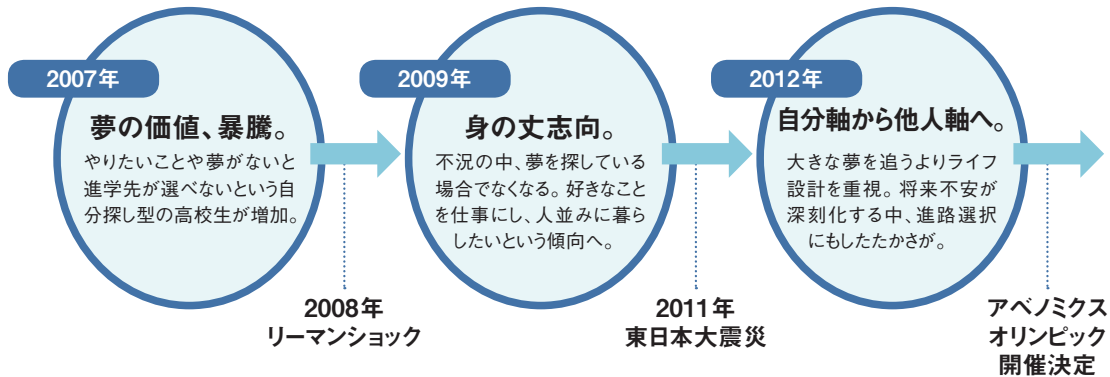
リクルート進学総研
 研究員 牧田綾子

～リーマンショック・アベノミクスを経て、高校生はどう変わったか～

小社では2007年から隔年で、高校生の将来観、キャリア観、ライフデザインなどを聞く、「高校生価値意識調査」を実施しています。ここ数年は、リーマンショック、東日本大震災や、アベノミクス、オリンピック開催決定など、高校生の価値意識に影響を及ぼす大きなできごとが起きました。また、新学習指導要領の施行—いわゆる「ゆとり教育」の終焉など、教育の変化もあります。このような変化のなかで、高校生の価値観はどう変わったのでしょうか。

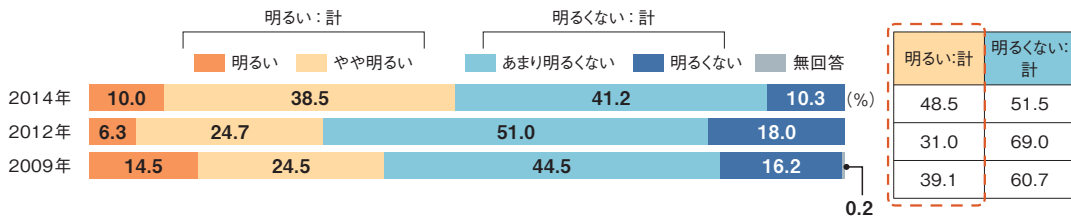
調査概要： ● 調査期間：2014年4月4日～4月8日 ● 調査方法：インターネット調査
 ● 調査対象：2014年3月時点の高校1～3年生のうち、進学希望者 ● 集計対象数：1,438人

図表1 高校生の価値意識の変遷

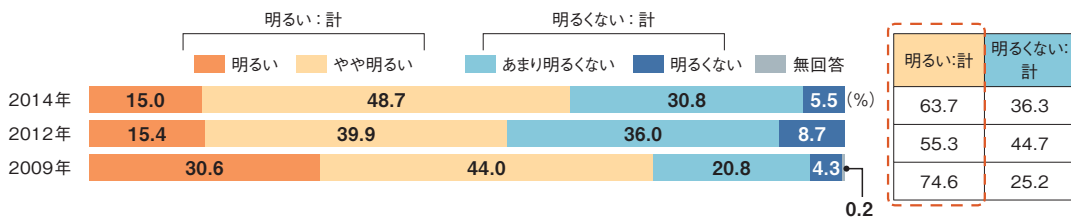


未来展望は回復の兆し

図表2 社会人になるころの社会の明るさ



図表3 自分自身の将来の明るさ



「夢」から「安定・保証」へ
 まず、2007年から前回調査（2012年）までの価値意識の変遷について振り返ってみたい。（図表1）
 2007年の高校生の価値観は、「夢の価値、暴騰」。自分のやりたいことや夢をもち、それに向かって努力することが重要なのだという考え方がある。そんな彼らの「夢志向」を大きく揺るがしたのが、2008年のリーマンショックだ。
 不況により、2009年の調査では、価値観が一転して「身の丈志向」に。そして2011年には東日本大震災が発生。社会的不安が増大し、資格などを取得し安定した職業に就くという「保証」を重視する傾向が見えた。
「将来の社会は明るい」が増加
 自分たちが社会人になるころの社会の明るさを聞いたところ（図表2）、「明るい」と答えた割合が2014年に大きく上昇した（2012年 31% ↓2014年 49%）。その理由として、アベノミクスと2020年のオリンピック開催の影響が多数挙げられており、景気回復への期待が高まっている。しかし、過半数は「明るくない」と感じており、まだまだ楽観視するには至らない。
 一方、自分の将来に対しても（図表3）

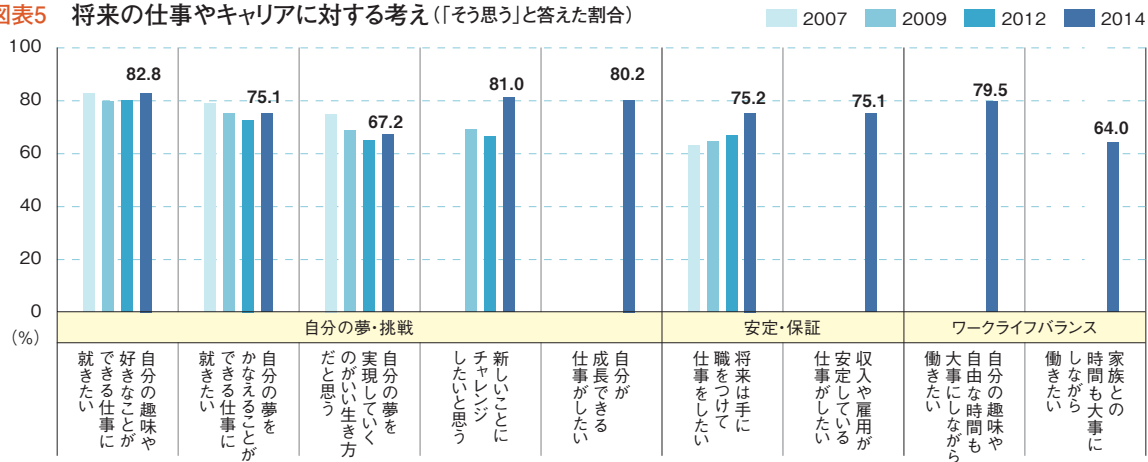
「夢」と「安定・保証」のバランス重視

図表4 高校生が考える自分たちの世代の強みと弱み（フリーコメントを定量的に集計）

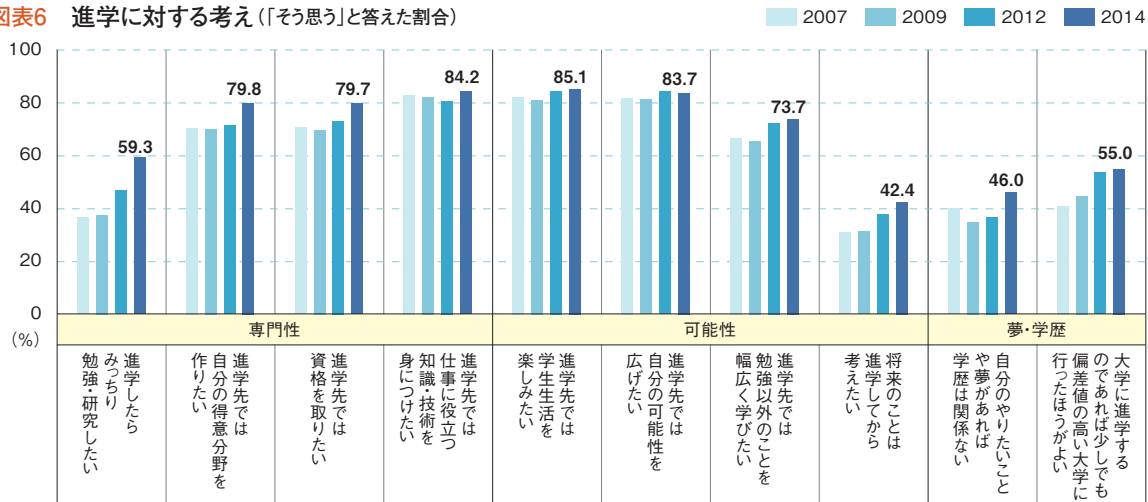
自分たちの世代の「強み」				自分たちの世代の「弱み」			
順位	強み	2014年 %	2012年 %	順位	弱み	2014年 %	2012年 %
1	インターネット・ネット	4.3	3.3	1	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代	22.4	25.0
2	IT・情報化社会	4.2	7.2	2	精神的な弱さ・根性がない・ストレスに弱い	4.7	2.7
3	パソコン・携帯電話・デジタル・電子機器	3.3	4.6	3	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い	4.5	8.6
4	発想力・独創性	2.7	2.2	4	あきらめやすい・我慢できない・忍耐力	3.9	3.5
5	若さ	2.4	5.4	5	コミュニケーション・会話が下手	3.2	2.8
6	脱ゆとり教育・新学習指導要領	2.3	※	6	社会的評価（認められない・馬鹿にされる）	2.5	2.2
7	柔軟性	2.0	2.3	7	打たれ弱い	2.3	3.4
8	協力・協調性	1.9	0.4		言われたことしかやらない・指示待ち・自主性や主体性がない	2.3	0.3
8	ゆとり教育・ゆとり教育世代	1.9	1.5	7	人間関係・友達付き合いが下手	2.3	0.9
	情報の収集力・伝達力	1.8	0.9		10	常識がない・ルールを守らない	2.0

※「脱ゆとり教育・新学習指導要領」：2012年の回答はなし

図表5 将来の仕事やキャリアに対する考え（「そう思う」と答えた割合）



図表6 進学に対する考え（「そう思う」と答えた割合）



3)、「明るい」と考えた割合が増加し、(2012年 55%→2014年 64%)前向きな姿勢がうかがえた。

強みは「ネット」、弱みは「ゆとり」

自分たちの世代の強み(図表4)は、ITスキルが上位に。スマートフォン所有率が8割を超え、小学校のころからSNSサービスに親しむ彼らは、「スマホを通じた情報収集や発信力は高い」「SNSのなかでコミュニケーションするのは慣れてる」と、ネットワークを構築し、関係性を維持することを得意としている。

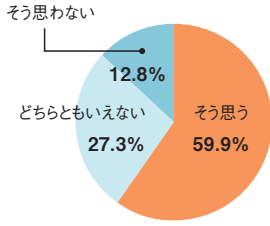
一方、弱みのトップは前回に引き続き「ゆとり教育」。強みの6位には「脱ゆとり教育」が入っている。狭間世代の不安もありながら、「脱ゆとりだから、基礎学力は高い」など、前向きにとらえている声も聞かれた。

「夢」や「挑戦」志向がやや回復

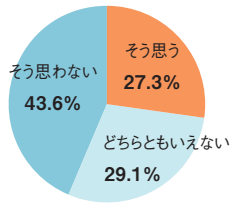
将来展望の回復に伴い、自分の夢をもち、実現することや、挑戦意欲が、2012年を底に上昇(図表5)。しかし依然として、将来は手に職をつけ、収入や雇用が保証された仕事に就きたいという思いも高くなっている。進学生でも、みっちり勉強したい、得意分野を作りたい、と、進学に前向きな意向が高まった(図表6)。

将来必要となる力は「主体性」や「実行力」

図表7 【女子】将来、結婚・出産しても働き続けたい



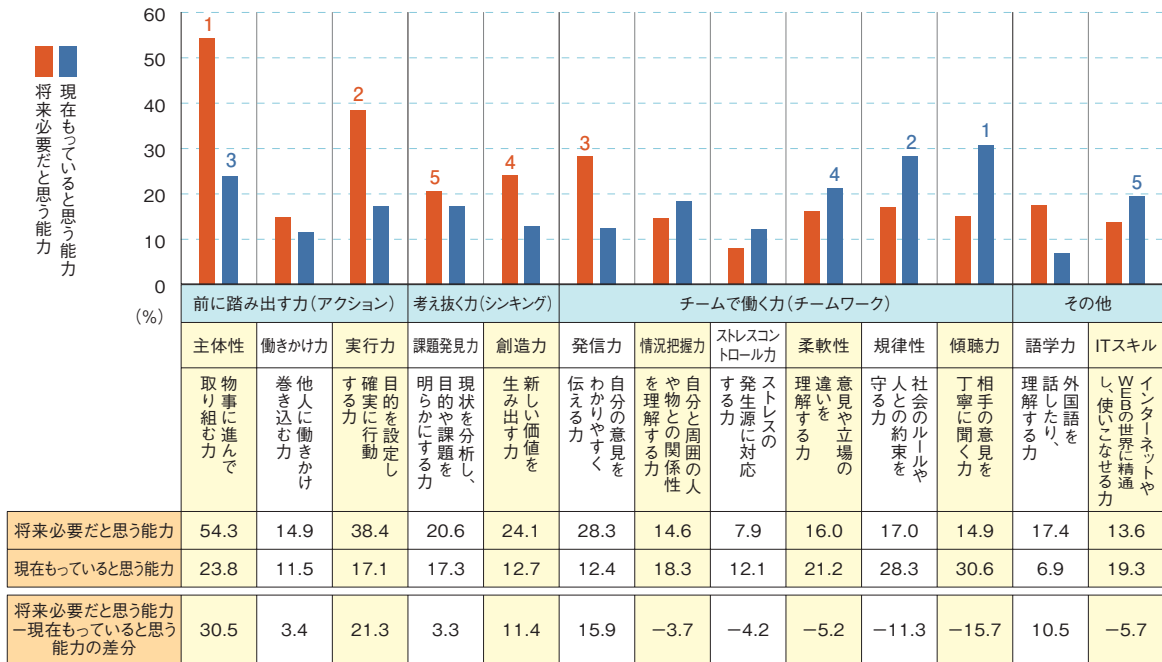
図表8 【女子】将来、専業主婦になりたい



図表9 【女子】結婚・出産しても働き続けたい理由

順位	理由	(%)
1位	仕事にやりがいを感じられそうだから	54.3
2位	経済的に自立しておきたいから	50.6
3位	夫婦どちらかの収入だけでは生活することが難いそうだから	44.8
4位	家庭だけでなく、社会とのつながりを持ち続けたいから	40.3
5位	自分で自由に使えるお小遣いがほしいから	40.0

図表10 将来社会で働くに当たり、必要だと思う能力と現在もっていると思う能力 (必要な能力は上位3つまで、もっている能力はすべてを選択しているため、差分は参考値)



今後必要になる能力は「主体性」

社会が必要とされるさまざまな力について、将来特に必要とされる能力

働き続けたい理由として、「仕事のやりがい」が「経済的事情」を上回っており(図表9)、女子高生の6割は、結婚・出産後のキャリアについて意欲的にとらえていることがわかる。

結婚・出産後も働きたいと考える女子高生は約6割と、専業主婦志向をもつ女子高生の約2倍となった(図表7・8)。その背景としては、彼らが生まれた時期に、日本の社会で共働き世帯が専業主婦世帯を上回り、働く母親を身近に見てきたことが、将来親に影響を与えていると考えられる。

女子高生のキャリア志向

ワークライフバランスも重視。自分の時間や家族と過ごす時間も大切にしている(図表5)。

「夢」と「安定保証」。「仕事」と「プライベート」。どちらかに偏るのではなく、変わりゆく環境に合わせて、どう変化させ、バランスを取っていくかが今の高校生にとって重要なのだ。

27%が「グローバル化は関係ない」

グローバル化の影響に関しては、4人に1人の高校生は、自分に関係がないと認識しており(図表11)、まだまだ全員がグローバル化の波を実感するには及ばないようだ。

関係があると認識しているのは72%だが、実際に将来、海外で働きたいと考える高校生は23%にとどまり(図表12)、働きたくないと考える高校生の半数以下。その理由のトップは語学力への不安で、語学が高いハードルとなっていることがわかる(図表13・14)。

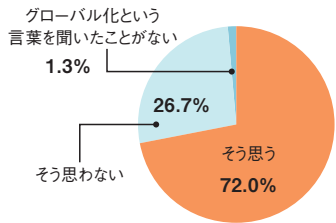
を3つ挙げてもらったところ(図表10)、「主体性」「実行力」「発信力」などが上位となった。特に「主体性」は5割を超えており、必要性を強く感じていることがわかる。

一方、現在もっていると思う能力は、「傾聴力」「規律性」そして3位に「主体性」が入っている。相手の意見を受容したり、ルールを守る力についてはあるととらえているようだ。

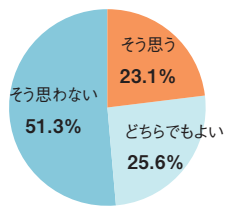
「主体性」については、自分たちも身につけていないわけではないが、社会で求められる期待値は非常に高く、そこにはまだ至っていないと自覚しているように感じられる。

▼明確な将来イメージをもって進学したい層が増加

図表11 グローバル化は自分に関係がある



図表12 将来、海外で働きたい



図表13 海外で働きたい理由 (%)

1位	日本以外の世界を知りたいから	53.5
2位	語学力を鍛えたい・生かしたいから	53.2
3位	国際的な仕事がしたいから	49.6
4位	外国人と一緒に仕事がしたいから	42.4
5位	最新の知識や技術が身につく環境で働きたいから	26.5

図表14 海外で働きたいと思わない理由 (%)

1位	語学力に自信がないから	61.5
2位	日本が好きだから	61.3
3位	海外の治安に不安があるから	48.1
4位	外国人と働くのが大変そうだから	25.1
5位	家族や友人と離れたくないから	20.4

図表15 高校生の進学意識別 7タイプ

5つの因子反応から7タイプに

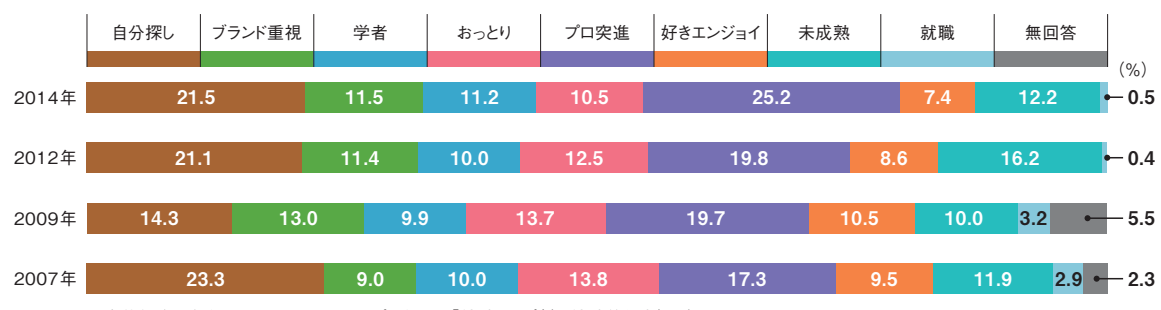
将来や進学に関する質問結果から、5つの因子が抽出されました。その因子への反応をもとに高校生を8つのタイプに分類。就職志望を除いた7タイプを高校生の典型と仮定しています。

●重視項目因子

- 学生生活謳歌型因子 勉強以外の学びや学生生活、可能性の広がり重視
- まじめ勉強型因子 学問や研究を充実させることや得意分野を作ること重視
- 地位上昇志向型因子 大きな成功、有名企業への就職、出世や富などステータスを重視
- 夢・興味を仕事に型因子 夢をかなえる、好きなことや趣味を仕事にすることを重視
- ほどんど生活型因子 高望みせず、そこそ楽しい生活ができることを重視

<p>Type 1 自分探シタイプ</p> <p>とりあえず大学に行って自分の可能性を広げたい</p> <p>将来のことは先延ばし。8割弱が大学・短大に進学。「入ってから夢をみつけない」と考える。偏差値や入試方法の基準しかもたないで、学校側の「なぜよいか」というレコメンドを期待。</p>	<p>Type 2 ブランド重視タイプ</p> <p>偏差値の高い学校に入って有名企業に就職したい</p> <p>今の目標は少しでも偏差値の高い大学に行くこと。有名企業に入り、出世することが幸せな生活の基盤になると考えている。流行に敏感で、進学情報の収集も活発。</p>	<p>Type 3 学者タイプ</p> <p>コツコツ勉強して得意分野を作りその道の専門家に</p> <p>進学したらコツコツ勉強して知識や技術を身につけ、将来の厳しい競争社会を生き残りたいと考える堅実派。早くから各学校や学部の詳細比較検討を進めている。</p>	<p>Type 4 おっとりタイプ</p> <p>勉強も遊びもバランスよく。高望みせず自分の世界を大切に</p> <p>競争が苦手で、上昇志向は低め。家族など身近な人達を大事にしており、地元志向も強い。小規模で居心地のよい雰囲気、資格なども取得したいと考えている。</p>	<p>Type 5 プロ突進タイプ</p> <p>なりたい職業へ一直線。自力で道を切り開き成功したい</p> <p>なりたい職業が明確。夢実現のための努力を厭わず、将来の成功を切望。ネットワークも広く、志望業界で働いている先輩からリアルな情報を手に入れ、進学先選びの参考にしている情熱がある。</p>	<p>Type 6 好きエンジョイタイプ</p> <p>ががつせずマイペースで好きなことを続けたい</p> <p>将来会社に入ったりに興味なく、今「好きなこと」を手がかりに進学先を考える。ただし厳しい環境は苦手で、自由に楽しくやりたい。交友関係が広く深い。</p>	<p>Type 7 未成熟タイプ</p> <p>夢はなく勉強は嫌い。今、楽しければOK</p> <p>将来の夢も、進学先へのこだわりもなく、「入れればどこでもいい」という感覚で進学する。自宅に届く進学情報誌など受け身でも触れられる情報に影響される。</p>
---	--	--	---	---	---	---

図表16 進学希望者のタイプ構成比の変化



※全体傾向の把握のため、上記の7タイプに加えて「就職タイプ」(=就職希望者)を追記している。
 ※2007年はFAX調査/2009年は郵送調査のため「無回答」が出現する。

将来イメージを明確にしたい層が増加

本調査では、将来や進学に関する回答を定量的に因子分析し、高校生を7つのタイプに分類している(図表15)。2007年から進学希望者のタイプ構成比の変化を見ると(図表16)、2007年で最も多かったのは、「自分探シタイプ」で、23%を占めていた。大学や専門学校へ進学した後には自分の可能性を広げ、将来について考えたい高校生が多かったのである。

しかし、今回は「プロ突進タイプ」が増加し、シェアが最大化。進学前に就きたい職業などの将来イメージを明確化したい層が増え、将来を考えることに前向きになっていくことがわかる。

未来展望は回復の兆しをみせたが、それでも社会の将来を不安に感じている高校生が過半数だ。夢を追い求めるだけでなく、地に足をつけ、社会で働くこととの両立に苦慮している姿も浮かんでくる。今後、答えのない難しい時代を生きる彼らのために、高校の先生や保護者をはじめとした、周囲の大人たちがどう彼ら一人ひとりを理解し、自立に向けた支援をすることができるかが重要になってくるだろう。